平成30年度　石神第一小学校　学　校　経　営　グランドデザイン

やさしく　かしこく　たくましく

＜保護者･地域･教師の願い＞
・礼節を重んじたり、思いやりを持って接したりすることができる子どもになってほしい。
・自分でやろうと決めたことに粘り強く最後まで取り組むことができる。
・自分のふるさとを愛し、地域の文化や伝統に関心を持つ子どもになってほしい。

＜児童の実態＞
・明るく素直で、挨拶ができる。
・指示されたことや与えられたことにまじめに取り組むことができる。
・自らすすんで意欲的に取り組んだり自分で方法を考えて計画的に取り組んだりすることが少ない。
・困難なことや面倒なことには意欲を見せないことが多い。
・特に高学年の国語・算数の「活用」に課題がある。
・肥満･肥満傾向児童が25%を越す。
・スポーツテストでは、筋持久力・全身持久力に課題がある。

学校経営方針
本校の課題解決をめざし、本校の可能性を追究して、学校･児童･地域の良さを生かしながら少人数を生かした特色ある学校経営を推進する。

めざす子どもの姿
◎　「ひと・もの・こと」などの対象と関わる中で、人間関係を築き、自分や相手のよさを感じ、さらに対象と関わることができる子ども

◎　教育活動全般を通して、「分かる」「できる」を実感でき、もっとやってみたいという思いや願いを高められる子ども

◎　夢や目標という未来に向かって自分自身を洗練することを通して、新たな自分を創り出そうとする子ども

◎　誰に対しても思いやりと感謝の気持ちを大切にし、認め合い、助け合いながら供に成長し、生きる力を育もうとする子ども

＜法令より＞　教育基本法
教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身共に健康な国民の育成を期して行わなければならない。
学校教育法
小学校は、教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、学校宇運営の改善を図るため必要な措置を講じることにより、その教育水準の向上に努めなければならない。

＜第６次福島県総合教育計画＞
福島の和で奏でる心豊かなたくましい人づくり
基本目標１　知･徳･体のバランスのとれた社会に貢献する自立した人間の形成
基本目標２　学校,家庭,地域が一体となった教育の実現
基本目標３　豊かな教育環境の形成
◆相双教育アピール◆　愛と英知と創造
「社会につなぎ、未来を切り拓く相双の教育」

知･徳･体の調和のとれた教育による
南相馬の未来を担う人材育成を目指して
＜南相馬市学力向上プラン＞
基礎基本の定着と活用力の向上
～全国トップレベルの学力を目指して～

重点目標
みんなのよさをいかし、学び合う子ども

心の豊かな子どもの育成

P　A

自らを律しつつ、思いやりの心を持って助け合い、協力しすすんで人や物、地域　とかかわりながら自分らしさを生かし、行動する子どもを育てます。

◎ 道徳教育の充実
・「特別の教科　道徳」の実施に向け、指導要領の一部改正を踏まえて道徳教育の改善と授業の充実を図る。
重点内容項目　「思いやり」「生命尊重」「郷土愛」

◎ 生徒指導の充実･小中連携
・全職員共通理解のもと､いじめや不登校の問題の未然防止、早期発見早期対応　SC と連携した心のケアに努める。
・石神中、石神二小との連携により、共通理解のもと、地域としての生徒指導の強化に努める。

◎ 望ましい人間関係の醸成
・自己存在感、有用感のある学級作りのため、よりよい人間関係を築くことのできる場や機会を設定する。

◎ 地域との連携･
・すすんで人や地域と関わりながら、郷土の伝統や文化などの良さを知り、ふるさとを愛する心を育む。
・地域の中で自分たちが関わることのできることを考え、途切れがちな絆をつなぎ直す。

D･C
□　いじめ･不登校をゼロとする
□　三校生徒指導委員会を充実〔スマホ等〕する。
□　授業参観での年１回の道徳の授業を実施する。
□　全校登山、地域と合同の運動会、祖父母ふれあい、地域伝統芸能を生かした教育活動を実践する。

進んで学ぶ子どもの育成

P　A

向上心を持って意欲的に学習し、協力して、考え、判断し、自分の考えをすすんで表現する子どもを育てます。

◎ 授業では
・全児童が活躍し、自己有用感を感得できる授業を実践する。
・主体的・対話的で深い学びのための授業改善を行う
・外国語科の導入を踏まえ、言語活動の充実を図る。
・話し合い･学び合いを通じ､児童相互に啓発する授業を設定する。
・根拠を明確にして書く、長文を読む活動を重点的指導に指導する
・適用とまとめの時間を確保する。
・少人数を行かした個に応じた指導を充実する。（T・T 指導）

◎ 基盤づくりでは
・「南相馬市９つの課題」と「学びのスタンダード」に取り組む。
・自主学習･家庭学習の習慣化と質の向上を図る。
・読書活動を推進する。

D･C
□　適用･習熟の時間を確保する。
□　２人で、４人で、話し合いの場を設定する。
□　学び合いの活動を取り入れる。
□　学校行事や活動のまとめ、感想発表を必ず行う。
□　自主学習ノート展示を行う。
□　読書の記録、一言感想、読書貯金を行う。
□　全職員少なくとも１回のテーマを決めた研究授業を実施する。
□　全国、県、市の学力実態調査で上学年の国語「活用」高学年の算数「活用」を全国平均以上にする。

明るく健康な子どもの育成

P　A

めあてを持って体力の向上を目指し、協力して、考え、判断して健康と安全の保持増進に努める子どもを育てます。

◎ 体育科授業の充実
・授業のめあてを明確にした体育科の授業
・体育科の授業の中に考える・話し合う場の設定
・継続して取り組む運動、時期を決めて取り組む運動

◎ 自分の身を自分で守る健康、安全教育の充実と推進
・　放射線教育や防災教育を中心に、事故や事件や災害から危険を回避し、自分の安全を自分で守るための指導を徹底する。
（放射線教育、防災教育、交通事故防止、不審者被害防止）

◎　専門性を生かしたT･Tによる健康教育の充実
・　養護教諭や外部講師と担任による授業で、家庭と連携した望ましい生活習慣の育成のための指導を行う。
（食育　性教育　病気の予防　薬物乱用防止、生活習慣の確立）

D･C
□　運動が好き、体育の授業が楽しいという児童の割合が 70%を超える
□　肥満･肥満傾向時を 20 %に減らす。
□　継続した体力作りを実施し、授業に身体作り運動を位置づける
□　震災・原発事故経験を生かした放射線教育と防災教育の充実を図る。

＜児童の実態＞
・明るく素直で、挨拶ができる。
・指示されたことや与えられたことにまじめに取り組むことができる。
・自らすすんで意欲的に取り組んだり自分で方法を考えて計画的に取り組んだりすることが少ない。
・困難なことや面倒なことには意欲を見せないことが多い。
・特に高学年の国語・算数の「活用」に課題がある。
・肥満･肥満傾向児童が30%を越す。
・スポーツテストでは、総合評価C・Dの児童が３０～４０%を占め、運動への苦手意識がある。
・筋持久力・全身持久力に課題がある。